

要 旨

本研究紀要は、「平成28・29年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業（高等学校・地理歴史）」の指定を受け、学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究として「**地理歴史科における科目相互の連携を図った授業実践の研究**」を主題に行った研究について、2年間の研究内容及びその成果・課題等をまとめたものである。

本校における研究主題・仮説は次のとおりである。

《研究主題》地理歴史科における科目相互の連携を図った授業実践の研究

《研究仮説》地理歴史科（世界史・日本史・地理）における科目相互の連携を図り、社会的事象の意味や意義、概念等を他科目と関連付けて総合的に捉えさせることで、地理歴史についての学習意欲や学力をより向上させることができるのではないか。

第1章「研究主題の設定」では、研究主題を設定するに至った理由について、本校生徒の学習状況や地理歴史科における課題等から明らかにする。

第2章「授業実践の研究」では、研究主題に基づき、科目相互の連携を図ることで「見方・考え方」を育成するための授業実践の成果について報告する。この際、次期学習指導要領を踏まえた授業改善の方向性として、「主体的・対話的で深い学び」の実現、「問い」の設定と構造化、課題解決プロセスに基づく「単元等のまとまりを見通した学び」などの視点を取り入れ、授業実践事例を紹介する。

第3章「地域の教育資源の活用」では、地理歴史科の各科目で培われた資質・能力や「見方・考え方」を働かせ、地域（実社会）に生じている様々な事象を把握したり、そこから課題を見い出して解決策を創造したりする学習活動として、「地域の教育資源を活用した体験的・協働的な学習」について報告する。具体的には、「縄文遺跡体験学習」「地域の人材を活用した歴史学習」「洞爺湖有珠山ジオパークと連携した学習」の3点である。

第4章「研究結果の検証」では、2年間にわたる研究実践の成果について、主として本校地理歴史科で定期的実施してきた「授業・学習アンケート」の結果から検証し、研究報告のまとめとする。

なお本研究紀要は誌面の都合上、全ての研究内容や授業実践等が盛り込まれていないわけではない。研究資料の補足として、是非とも「北海道伊達緑丘高等学校ホームページ (<http://www.datemidorigaoka.hokkaido-c.ed.jp>) もご参照いただきたい。

本研究紀要が授業改善の一助となれば幸いである。

目次

本校の概要	4
第1章 研究主題の設定——生徒の現状と地理歴史科における課題——	
1 「北海道学力等実態調査」の結果より	6
2 生徒の学習動機と学習方法についての意識	7
3 地理歴史の教育課程や授業等に対する生徒の意識	15
4 評価問題（ペーパーテスト）の結果より	17
第2章 授業実践の研究——「見方・考え方」を育成するために——	
1 授業改善の方向性	28
2 「問い」の設定と構造化	32
3 「科目相互の連携」の方策	38
4 授業実践紹介	40
第3章 地域の教育資源の活用——体験的・協働的な学習——	
1 地域の教育資源を活用する意義	64
2 史跡「北黄金貝塚」を活用した縄文遺跡体験学習	65
3 地域の人材を活用した歴史学習	71
4 洞爺湖有珠山ジオパークと連携した学習	73
第4章 研究結果の検証——アンケートにみる生徒の変容と課題——	
1 検証にあたって	80
2 学校や家庭での生活と学習状況	81
3 学習動機や学習方法についての意識の変容	82
4 地理歴史科の教育課程や授業に対する生徒の評価	86
5 世界史・日本史の関連を学ぶ意義	93